

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori gi

vol.40
Summer 2009



特別対談

山形を冠する者同士、
連携を強化し、地域の
期待と声援に応えよう。

山大ベストティーチャー訪問／研究室訪問特別編

教育者としての
熱い思いと魅力に迫る。



特別対談

山形を冠する者同士、連携を強化し、地域の期待と声援に応えよう。

海保宣生

社団法人山形県スポーツ振興
21世紀協会理事長



結城章夫

山形大学長

山形大学と、モンテディオ山形を運営する山形県スポーツ振興21世紀協会は、それぞれの発展と地域社会への貢献を目的としてさまざまな形で連携体制を強めています。また、山形大学は国立大学としては異例ともいえるクラブチームスポンサーに。地域とともに、地域のために何をすべきか、両者のトップが今後について語り合いました。

【司会進行】 立松潔山形大学人文学部教授

自然豊かな山形は、 教育にスポーツに 集中できる素晴らしい環境。

立松 山形大学と社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会(スポーツ山形21)が運営するモンテディオ山形は、地域社会への貢献を目的にさまざまな連携活動を始めたいです。今日は、結城学長と海保理事長に、お互いがこれからの地域社会に果たすべき役割などについてお話しさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。でははじめに、お二人がそれぞれ現職に就任されました経緯と山形の印象についてお聞かせください。

結城 私は、山形で生まれ育って、大学から東京に出まして、長く中央官庁に務めておりました。ご縁があって2年ほど前の平成19年9月に学長に就任させていただきました。山形で暮らすのは40年ぶり。山形のことには知っていたつもりでしたが、東京や海外での暮らしを経験して、高校生の頃には気づけなかったいろんな良さを改めて実感しています。自然環境がよく、飲み物食べ物おいしいというのは当然ですけども、私がいちばんいいと思うのは、ここに住んでいる人々。みなさん親しみ深くて優しく、昔からの日本のいいところが山形には残っている。とても暮らしやすいところだと感じています。

海保 私は、平成18年の5月に就任したんですが、その直前一年間は何もしないフリーの状態で過ごしていました。その頃、このスポーツ山形21が協会として人材を探しているという話が巡りめぐって日本サッカー協会前会長の川淵さんから私の方にありまして、「ひとつ汗をかいてみないか」



海保 宣生

かいほのぶお ●社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会理事長／東京都出身。立教大学卒業。東京オリンピック男子バスケット日本代表として活躍。鹿島アントラーズや女子バスケット日本リーグ機構等で要職を歴任後、2006年より現職。

と紹介を受けたんです。私自身は、長く民間の企業に勤めましたし、女子バスケットボール日本リーグ機構の専務理事なども務めて、ようやく自由になって自由を満喫していたときですから、正直戸惑いました。でも、外からそういう声を掛けていただけることを有り難く思ひ、一度取り組んでみようかと決断しました。私は東京生まれの

東京育ち、山形県とはまったく縁もゆかりもなく、山形のこととはほとんど何も知りませんでした。来てみると、とにかく自然環境が素晴らしい。そして、その産物であるお米をはじめとするおいしい農産物がたくさん味わえるんですね。まさに、農業立県というか、この環境がモンテディオ山形を運営する上でのベースではないかと感じています。

結城 山形の街並みというのは、アメリカの大学町の佇まいによく似ているような気がします。学生が勉強やスポーツに打ち込む場所としては最適で、山形は東京や仙台よりも大学の立地場所として、いいんじゃないでしょうか。

地域を重視し、地域とともに 県民に親しまれる 大学であり、チームでありたい

立松 山形大学もモンテディオ山形も地域を重視し、地域連携・地域密着を理念としていますが、そうした地域との関わりについてお二人にお話をお伺ひしたいと思ひます。

結城 山形大学は、典型的な地方の国立大学だと思うんですね。やはり地元との関係が非常に大事であり、今後も重視していきたいと考えています。実際、この山形の地域医療にしても、教員養成にしても、地方自治体幹部公務員の育成にしても、中心的役割を果たしてきました。企業の経営者、技術者、あるいは農業のリーダーといった地域人材の育成にも大いに貢献していると思ひますし、今後もそれらの役割はしっかりと担っていく考えです。そして、地域における知の拠点として、地域開発への貢献や産学連携にも積極的に取り組んでいきたいと思ひています。

立松 モンテディオ山形の地域との関わりについてはいかがでしょうか。

海保 もともとサッカーJリーグの基本理念が「地域に根ざした」ということですし、クラブ経営をしていく上で地域と強いつながりを持っていかねばいけません。Jリーグがスタートした1993年当時は、ほとんどが親企業、Jリーグの場合は責任企業というんですが、その経営の母体となる企業の傘下でクラブは存在したんですが、Jリーグ本部からは、地域と密着するように、地域の人に支えられる存在でなくてはダメだといわれていました。その点、われわれモン



モンテディオ山形Tシャツ着用でスタジアム観戦に訪れた結城学長と、山形県スポーツ振興21世紀協会の海保理事長。今後の連携強化と互いの健闘を誓って固い握手。

テディオ山形のように親企業がなくて、社団法人で、まさに地域の人たちのものなんですね。クラブの理念としては、主にサッカーという競技を通じて山形県内のスポーツの振興に寄与するというものなんですね。都会のような大きなスポンサーがつくわけではありませんから、結局は地域の皆さんに支えてもらわないと存在できないわけです。当然、地域の皆さんと深いつながりを持っていないといけません。我々の活動自体が地域の皆さんの活力、勇気、元気、やる気とかに直結していけばいいし、さらにいえば、地域の経済の発展にも寄与する形になれば素晴らしいと思ひています。そのためには、我々の活動に対して多くの県民の皆さんから関心を持ってもらえる、そんな存在にならなければならないと思ひています。

結城 地域に密着したモンテディオの姿は素晴らしいと思ひます。

海保 いやいや、まだまだ頑張らなくてはいいないですね。

結城 私たち山形大学のキャッチフレーズは、「地域に根ざして、世界をめざす」。地域にしっかりと根を生やして教育・研究をやって世界を目指していくということなんです。

山形大学とモンテディオ山形で 実際に行われている連携と、 今後への課題と期待

立松 地域に根ざしてそれぞれ頑張られているわけですが、これからの山形大学とスポーツ山形21の連携についてお話をしたいと思います。まず結城学長から、

こんな厳しい状況でも、
ただ生きのびるのではなく、
キラリと光る存在感のある
大学として発展していきたい。

結城

モンテディオ山形への支援の経緯なども含めてお話し願います。

結城 モンテディオ山形は、山形にとって本当に大事な存在であり、山形の宝だと思っています。山形大学としても是非、支援というかたちで応援をしていきたいということで、「モンテディオ山形大学サポーターズ」を結成し、スタジアムに山形大学の看板を立てようと募金を行いました。結果的に目標金額には到達しなかったんですが、不足分は大学の広報宣伝にもなるというこ



結城章夫

ゆうきあきお ●山形大学長／山形県出身。東京大学工学部物理工学科卒業、米国ミシガン大学大学院原子力工学科(工学修士)。科学技術庁入庁、文部科学省大臣官房長、文部科学事務次官等を歴任の後、2007年9月より現職。

とで、大学の経費から捻出して看板を出させてもらいました。昨年からはじめて、今年はJ1になって料金もかなり高くなったのですが、今年もまた募金と学長が持っている予算で頑張りました。

立松 結城学長もモンテディオ山形の試合を何度か観戦されたと思うのですが、どんな感想をお持ちですか。

結城 何度か観戦させてもらっていますが、特に、先日の浦和レッズ戦はいい試合でしたね。結果はちょっと残念でしたが、あの時も浦和からの応援団がたくさん来て、天童や山形が赤いユニフォームの人で溢れたと、それから天童温泉や東根温泉が満杯になったとお聞きしまして、J1の威力を実感しましたね。

海保 私は、鹿島アントラーズ時代には、観客動員の際にアウェイのサポーターをアテにするというのはタブーだったんですが、山形に来て少し考えが変わりました。県外から訪れる対戦相手のサポーターであっても温かく迎え入れる、それはそれでいかに



「Jリーグと地域社会」(教養教育セミナー)の授業の様子

も山形らしくていいんじゃないかと。

立松 昨年、私もスポーツ山形21のスタッフの方からモンテディオ山形を素材にした授業をやってもらえないかという要請を受けまして、快くお引き受けしたのですが、その時に印象に残ったのが、モンテディオ山形の皆さんが積極的に地域に入っていくとされているということでした。この授業は学生たちにも好評でしたし、私自身もモンテディオ山形を非常に身近に感じる事ができました。こうした山形大学との関わりはまだ始まったばかりと言っていると思うのですが、理事長さんから何か要望とか構想とかがありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

海保 要望の前にですね、他のクラブの場合も、一部大学がスポンサーになっているケースもあるんですが、私の知る限りでは、国立大学でスポンサーになっているところってなかったんですね。ですから、山形大学さんが看板を出してくださるという話を聞いたときに、もうびっくりしまして喜び勇んで学長のところに伺いました。NHKも取材に飛んでくるほど画期的なことですよこれは。よく考えてみると、結城学長は前職の文部科学省の事務次官をなさったときに国立大学の法人化を進められて、今度は山形大学に来られてそれを実践するお立場になられて、そういう意味で大学経営の哲学をお持ちになっていると感じましたね。我々はそういうご期待に応えなければいけないわけで、今年からめでたくJ1に昇格できて、山形だけではなく全国区で山形大学さんの看板を知らしめられるような環境になったということであれしく思っています。さらに、産学共同で何か具体的な形のものを見つけて、取り組んでいきたいと思っています。

結城 山形大学の大学祭や、大学病院などの慰問とかでモンテディオ山形の選手の方々と交流の機会が増えれば、スタジアムへの観客動員にもつなげられると思うのですが。

海保 そういうことに対しては選手たちも非常に意欲的ですから、スケジュールの調整さえつけば大丈夫です。早めに企画して頂ければ、どんどんやっていきましょう。それに、大学の日常的に行う授業に我々の持っているものを提供できないでしょうか。スポーツビジネス、ボランティア、インターンシップで我々の職場に来ていただいて、



広く県民に関心を
持つて頂いて、スタジアムで
試合を観戦してもらおう、
これに尽きると思いますね。

海保



いろんな運営にかかわってもらおうとか、お互いがよくなるような企画がきっとあるはずですから、少しずつ具体化していきたいですね。

結城 私も、学生たちには講義を聴くだけではなく、ボランティアやインターンシップといった社会活動を大にやってもらいたい、それが人間力につながっていくと思っています。

厳しい財政状況にあっても 勝ちに行く、取りに行く、 ここでも地域の支援が不可欠

立松 国立大学も法人化になって競争も激しくなり、財政的にも厳しくなっていますが、Jリーグも特に地方のクラブは財政面で非常に厳しいと聞いています。そうした厳しい状況にどのように立ち向かわれているのか、それぞれにお聞きしたいと思います。

海保 モンテディオ山形には親会社がないわけですから、とにかく広く県民に関心を持って頂いて、親しみを持って頂くということでしょうか。スタジアムに来て試合を観戦してもらおう、これに尽きると思いますね。山形でクラブを運営していこうと思ったら親企業がない、ということも嘆いてもしようがないですから。

立松 J1に昇格してからは、いろんな面で順調と言っているのでしょうか。

海保 観客動員については、まだまだ相手頼みというところがあって、相手が浦和だから、新潟だから見に来るといった傾向が強いんですね。対戦相手によって観客が入ったり、入らなかったりという現象がありま



立松 潔

たてまつきよし ●山形大学人文学部教授/愛知県出身。一橋大学大学院修了。専門は日本経済論。モンテディオ山形(スポーツ山形21)との連携による教養セミナー「Jリーグと地域社会」を開講。自身もサッカー観戦を趣味としている。

すから、山形の試合を見に来るという状態を作り上げていきたいと思っています。

結城 いまから5年ほど前に国立大学が法人化されて、以前から教育・研究については大学に任されていたわけですが、この学問の自由に加えて、経営の自由も与えられたわけです。国からの予算は削られる、大学に進んでくる18歳人口は減少する、こんな状況にあっても山形大学はただ生き伸



「モンテディオ山形大学サポーターズ」が募金活動を行い、学長裁量経費と併せて掲出がなかったスタジアム広告看板。全国も注目!

びるだけではなくて、キラリと光る存在感のある大学として発展していきたいと考えています。国から自動的に来る予算を待つだけではなくて、応募して競争してとってくる、民間との共同研究や受託研究に積極的に取り組む、県民からの募金「山形大学未来基金」とか、さまざまな手法で大学自前の財源を確保していきたいと考えています。
海保 なるほど。私も、本来はスポンサーさんとはお互いにウィンウィンの関係でなければいけないと思うんですが、残念ながらモンテディオ山形はこれまで一方的に援助してもらっているという状況だったんですね。ところが、最近ではモンテディオ山形絡みで、ある企業の山形県内株主が増えたとか、ある銀行のモンテディオ山形応援定期預金に大反響があったとか、少しずつモンテディオ山形が地域にいい影響を与えられるような状況になってきましたので、山形大学ともいい共同作業ができていけばいいなと思っています。

結城 山形大学には、1万人の学生と約2000人の教職員がいますので、いろんな意味で力を合わせて地元山形の発展のために頑張っていきたいと思います。

海保 先程、学長におっしゃって頂いたように、モンテディオ山形を本当の意味で山形の宝にしたいですね。名実ともにそうなるために一生懸命取り組んで参ります。学長さんにももっと気軽に観戦して頂きたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

立松 本日は、お忙しいなか本当にありがとうございました。

人文学部

国際交流締結校で北川副学部長が招待講義を行いました



3月30日(月)から4月3日(金)にかけて、人文学部教職員4名(北川副学部長、阿部副学部長、福山教授、斎藤係員)がハルビン工業大学外国語学院と人文・社会科学学院を訪問しました。

今回の訪問は、人文学部国際交流委員会委員長である北川副学部長が、外国語学院と人文・社会科学学院から、両学部の学生を対象とした日本政治に関する招待講義の依頼を受けたことにより実現しました。講義は「日本政治の現在」と題し

て、1990年代以降のグローバリゼーションの加速化に伴い、日本では「第三の開国」という議論が生まれ、それに向けた政治と社会の変容が起こっていることを、具体的事例に則して話したものです。ハルビン工業大学生の日本の政治・社会・文化への関心は非常に高く、100名を超える学生と教員が聴講しました。

また、両学院とは、今後の研究交流や大学院レベルでの学生交流について意見交換を行いました。

地域教育文化学部

新学部初めての卒業生



地域教育文化学部は、新学部となって初めての卒業式が3月25日(水)に行われました。卒業祝賀会は、山形国際ホテルを会場に行われ、学部卒業生241名及び教育学研究科修士40名が出席し、ご家族や大学関係者から祝福されました。最後に万歳三唱を行い、卒業の新たな門出を祝いました。卒業生の進路としては学校教員に46名が就職したほか、地方公務員としては山形県、宮城県などの一般事務のほか仙台市(栄養士)、警察官

などが含まれています。民間企業では教育関連、金融保険関連企業のほか、観光、建築、情報、食品、医療など新学部によって職種が広がった分野もあります。

また新たに設置された教育実践研究科、地域教育文化研究科の大学院をはじめ、東北大学、東京芸術大学、筑波大学等の大学院へ進学するなど、将来の活躍を夢見ながら日々研鑽を積んでいます。

AEDを使った心肺蘇生法講習会を実施しました

理学部



理学部2号館にAED(自動体外式除細動器)を新たに設置しました。理学部ではこの機会に、いざという時に有効に活用されるよう、5月11日(月)と13日(水)の2回に分けてAEDを使った心肺蘇生法の講習会を実施しました。

山形市消防署の方の指導を受け、教職員・学生合わせて40名が、心臓マッサージと人工呼吸による心肺蘇生法とAEDの操作を体験しました。初めて体験するという方がほとんどで、最初はぎ

こちない動きでしたが、終盤になるとスムーズな応急措置を行えるようになりました。万一の際には、今回の講習が役に立つものと思います。

なお、今回の講習会「普通救命講習I(3時間)」を受講された方には、山形市消防署より修了証が交付されます。理学部では2年前にもこの講習会を実施しましたが、今後もAEDを使った講習会を引き続き実施してまいります。

医学部

筑波大学附属駒場中学校の生徒による訪問取材



訪問生徒と記念撮影をする嘉山医学部長

医学部では、5月20日(水)に筑波大学附属駒場中学校の生徒による嘉山医学部長への訪問取材が行われました。

これは、駒場中学校で実施している「総合的な学習の時間」の授業の一貫として、生徒が5人程度の小グループで、自ら課題を設定し、山形県について研究する学習活動として行われました。今回訪問した生徒たちは、テーマを「山形の医療と介護について」と設定し、山形県の医療の問題を考

えるにあたって実際の医療現場の現状及び取り組みについて学ぶことを訪問の目的としていました。

当日は、嘉山医学部長に対して、本学が実施している医師不足への対応策である「リフレッシュ医学教育事業」の現況や、診療科別に見る医師の偏在の悪化傾向の原因と打開策について等大人顔負けの取材が行われました。帰り際に、訪問した生徒の一人が「初めて大物に出会った感じがした。」と興奮気味に帰路についたのが印象的でした。

工学部

帝人化成株式会社 寄附講座開講セレモニーを開催

4月21日(火)、本学部の前身である旧米沢高等工業学校本館(国指定重要文化財)で、「高分子ナノ構造制御工学」講座の開講セレモニーを開催しました。この講座は、帝人グループで高機能樹脂事業を手がける帝人化成株式会社の寄附を受け、高分子のナノ構造制御技術の開発に関する研究を行うものです。旧米沢高等工業学校本館は、約90年前、日本初のレーヨンの開発が行われた場所でもあり、その研究成果を事業化して今日の帝

人の発祥に結びついたという歴史があります。当日は、帝人株式会社の山岸隆副社長や本学の結城章夫学長を含む多くの関係者が出席しました。本講座の指導にあたる大学院理工学研究科の井上隆教授の記念講演では、研究に使用する装置やナノ構造をコントロールすることにより開発してきた数々の高性能・高機能をもつ新素材等が紹介されました。本講座の設置により、本学が世界に類のない高分子工学の拠点になることが期待されます。



山形県農林水産部との連携協定に基づく連携推進協議会が開催されました

農学部

6月8日(月)寒河江市の農業総合研究センター園芸試験場において、平成21年度山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会が開催されました。

農林水産部との連携協定では、山形県の豊かな自然環境と農林水産業を基盤とした学際的、業際的活動を展開することを目指し、研究連携及び人材の交流等の促進を図るなど、相互の協力関係を構築するための組織間コンセンサスを形成するこ

とを目的としています。総会では平成20年度の活動報告及び平成21年度の事業計画等について話し合いが行われた後、共同事業として平成21年度公募型事業に採択された小笠原宣好准教授を代表とする研究課題と、昨年度から共同研究を進めている高橋敏能教授の連携プロジェクトが紹介されました。引き続き、現在取り組んでいる研究事業について園場での視察及びテーマセッションが行われました。



園芸試験場職員による園場の説明

国際センター

「外国人CATS」全国かごかき駅伝競走大会で審査員特別賞 受賞!

5月4日(月)に「かみのやま温泉全国かごかき駅伝競走大会」が上山市内で開かれました。

本学の留学生チームを含め14チームが参加し、大河ドラマ「天地人」の主人公、直江兼統や「ゲゲゲの鬼太郎」などの仮装もあり、道路を埋めた観客を盛り上げました。この大会では、2人1組でかごを担ぎ、男性チームは女性を、女性チームは重さ約20キログラムの千両箱を乗せて走ります。国際交流イベントを通して留学生と地域の方々との

交流を図るために、国際センターの允准教授が引率し、5年前から本学の留学生チームがこの大会に参加してきました。今年は男女2チームが挑戦し、可愛い猫の仮装をした女性チーム「外国人CATS」が、昨年の男性チームに続いて見事に「審査員特別賞」を受賞しました。この大会は各局のテレビニュースや新聞に取り上げられ、また、全国ニュースでも放映され、山形大学と留学生の活動をPRするよい機会にもなりました。



附属図書館・附属博物館

「キャリア・スタート・ウィーク」で中学生が職場体験をしました

5月11日(月)から15日(金)までの5日間、中央図書館と附属博物館は、山形市立第四中学校2年生2名を「キャリア・スタート・ウィーク」職場体験生として受け入れました。「キャリア・スタート・ウィーク」とは、いろいろな職場での体験活動や勤労生産活動、福祉体験活動などを行い勤労観や職業観を育てることを目的とした学習活動で、体験生の受け入れは今年で3年目になります。

5日間のうちの前半2日を図書館で行い、開館

作業、カウンター業務、蔵書点検などを体験しました。カウンター業務では、最初は2人とも不安そうでしたが、すぐに慣れて大学生相手にも自信をもって対応できるようになりました。

後半3日は博物館で行いました。和綴じ、軸物の展示作業、キャプション作成、展示室清掃等、多岐に渡る業務を体験しました。博物館には、たくさんの種類の仕事があることに驚いていた様子でした。





山大ベスト
ティーチャー訪問

Best Teacher Prize

【研究室訪問
特別編】

医師であり研究者でもある教育者。
学生投票で栄えある1位に。

壁を作らず 会話する医療を 浸透させたいと 学生たちとの 対話も氣さくに。

【医学部部門】

平成20年度

医学部ベストティーチャー賞
最優秀教員賞受賞

橋本淳一

整形外科学講座助教

医師として感じ、考えたこと。
18年間の経験で得たものを
学生たちの将来展望に役立てたい。

学生への教育面で顕著な業績や功績のあった教員を表彰するベストティーチャー賞。医学部では、30ほどある各分野より推薦された先生方を候補者とし、学生の投票によって決定している。見事1位を獲得し、平成20年度の最優秀教員賞に輝いたのは整形外科学の橋本淳一先生。骨粗鬆症を基にした弱い骨に対する脊椎の手術開発や幹細胞を用いた骨再生に関する研究に取り組むとともに、臨床に立ち、さらに学生の指導にもあたっている。「どうして私が受賞できたのかとても意外です」と謙遜しきりの橋本先生だが、学生を指導する際には、会話を大切にするように心掛けるなど教育者としてのポリシーは明快だ。年齢や立場による縦の壁や専門の違いによる横の壁など、さまざまな意味で弊害となる壁を作らない医療を標榜する橋本先生は、話し合える環境づくりを重視しているのだ。「医療技術はどんどん変わっていくので、私が伝えるべきは、むしろ学生の段階では吸収しにくい、目指すべき医師像や患者さんとの接し方などではないかと。だ

から、18年間の経験の中で私が感じたことや考えたことを話すようにしています」と話が進むにつれて教育者の表情に。学生と接するときは名前の方で呼んだり、学生たちと同じ目線でいっしょに考えたり話し合ったり、そんな細やかな配慮もちゃんと学生たちには届いているようだ。

この受賞を機にもっと頑張らなければと意欲も新たにしたいという橋本先生。そんなベストティーチャーのもとで、患者さんとの接し方や医師としてあるべき姿を吸収した学生たちの医者としての将来には大いに期待できそうだ。



橋本淳一

はしもとじゅんいち ●医学部助教／福島県出身。1991年山形大学医学部卒業。2000年医学博士取得。2001年研究員として米国ワシントン大学医学部へ。2003年山形大学医学部整形外科着任。現在、医局長を務める。

その他の受賞者

優秀教員賞受賞

山口咲奈枝 医学部看護学科臨床看護学講座助教

太田伸男 医学部医学科
耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座講師



医学部ベストティーチャー賞の記念メダル。授与される記念品や賞金、副賞などは学部によってもさまざまに考慮、工夫されている。

大学での学びをより有意義に。 細やかな指導で学生からの信頼も厚く。



高校とは違う 大学での学び方や 考え方を指導。 学生の意欲と 希望を引き出す。

【教養教育部門】

平成20年度

教養教育ベストティーチャー
新人賞受賞

杉原真晃

高等教育研究企画センター准教授

その他の受賞者

教養教育ベストティーチャー賞

三上英司 地域教育文化学部文化創造学科准教授

岩鼻通明 農学部生物環境学科教授

教養教育ベストティーチャー新人賞

斎藤学 地域教育文化学部文化創造学科准教授

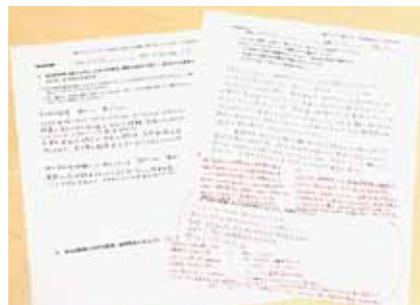
大学生生活を充実させる初めの一步。
“教えてもらって覚える”から
“自分で考え、人に伝える”教育へ。

学生からの授業改善アンケートや受講者数などをもとに、教養教育において優れた授業を提供していると判断された教員に授与される教養教育ベストティーチャー賞。平成20年度の新人賞に輝いた杉原真晃先生は、京都からやって来た口調も穏やかな着任3年目の先生。幼児教育から高等教育へと対象はシフトしたものの一貫して教育学に取り組んできた根っからの教育者。現職においては講座を開講する義務はないにもかかわらず、「教えることが好きだから」と教養セミナーを自主的に開講し、いずれの授業も学生の間で好評を博している。特に力を入れているのが初年次教育。高校とは学習スタイルも環境もガラッと変わる大学。そこでつまづいて大学に不適應を起こしたり、悩んだり、落ちこぼれたりする



杉原真晃

すぎはらまさあき ● 高等教育研究企画センター准教授 / 大阪府出身。1995年神戸大学卒業後一度幼稚園・養護学校(現、特別支援学校)で教職に就くもさらに学びを深めたいと京都大学大学院にて修士課程修了。2006年より本学に着任。



同じ学生のワークシートを比較してみると、最初は書き込みの少なかった学生も徐々に記入量が増え、自分の考えや主張が明確になってきたことがわかる。

ことのないように、高校と大学の違いを説明し、学生たちの意欲や積極性を引き出すというもの。「春(秋)からのキョウヨウ教育必勝法」や「なせば成る!—大学生生活事始め—」など講座名もとてもユニーク。それら講座の履修生140名に毎回ワークシートを書かせ、そのすべてにコメントを添えて返すというきめ細かい指導法は今回の受賞要因のひとつとも言われている。

大学1年次という大切な時期に杉原先生と出会い、大学で学ぶ自覚や多様な発想などに触れることの意義は大きい。教養教育を通して新たな将来設計を見出す学生も少なくないという。残念ながら杉原先生の講座は1年次だけだが、その後もどんな相談や質問にも快く応じてもらえそうだ。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 重要文化財である旧米沢高等工業学校本館の中にある「タカラコーナー」にて、だっこちゃんを手に穏やかに微笑む佐藤さん。誰もが一度は手にしたタカラ歴代の玩具が多数展示されており、楽しさと懐かしさに溢れている。

2 タカラコーナーに展示されている歴代のリカちゃん人形。一番左側が初代リカちゃん、一番右側が5代目。時代とともに顔や体型が少しずつ変化しているのが印象的で、思い出のリカちゃんと対面することができる。

3 昨年からの講義を行っている佐藤さん。心の教育を重んじ、「起立、礼」という大学では珍しい光景で授業が始まる。ものづくりから企業経営まで、人生の成功者である大先輩の講義に耳を傾ける学生たちの表情は真剣そのもの。

「だっこちゃん」や「リカちゃん人形」を生んだおもちゃの王様は、生涯現役の尊敬すべき大先輩。

信念の成果

佐藤安太 玩具総合メーカー 株式会社タカラ 創業者

リカちゃん人形や人生ゲームなど、誰もが知っている玩具の定番を世に送り出した「タカラ」の創業者・佐藤安太氏がわが山形大学のOBであることを知る人は意外に少ないのではないだろうか。2001年に77歳で社長職を退任した後もNPO法人の理事長を務めるなど、さまざまな方面で現役として活躍中の85歳。しかも、佐藤さんは現在、山形大学理工学研究科ものづくり技術経営学専攻博士課程に所属し、学位論文および学術論文を執筆中の大学院生であり、昨年からは工学部の2年生を対象とする講義の教壇に立つ先生でもあるのだ。「倫理工学システム思考技術」という新しい教育システムを開発し、心の教育を重視しながら成功する考え方を伝授している。

佐藤さんが米沢工業専門学校化学工業科（現山形大学工学部）に入学したのは戦時中のこと。当時、石油開発や製油が国としての重要課題であったことから、お国のために応用化学の勉強をするようにと学校の先生に勧められての進学だった。しかし、ほどなく学徒動員で郡山市の化学工業工場働くことになり、そこで空襲に遭い、周囲の人々がほとんど命を失うという惨劇を目の当たりにする。その後の人生で折に触れ、自分が九死に一生を得たことの意味を考え続けたという。終戦後は上京し、サラリーマンとしてさまざまな職業を体験。その後、山大時代の先輩の指導を受けて昭和28年に「(株)タカラ」の前身となる「佐藤ビニール工業所」を設立し、山大で学んだビニールの加

工技術を基にレインコートや財布、ベルトなどのビニール製品を製造。昭和35年には社名も「タカラ」と改め、子供用プールやビーチボールなどのビニール玩具を作るようになっていた。そしてあの一世を風靡したビニール玩具「だっこちゃん」の誕生へと繋がる。さらに、その後もリカちゃん人形や人生ゲーム、チョコQなど、大ヒット商品を次々と世に送り出し、「おもちゃの王様」と呼ばれるまでになった佐藤さん。悲惨な戦争体験があったからこそ、人々に夢や希望を与える玩具づくりを指向したのかもしれない。ビジネスの第一線を退いた今も悠々自適の老後を選ばず、地域や後生のためにと奔走する姿には頭が下がるが、同時に、我々の大先輩であることを誇りに感じて大いに胸を張りたい。

今回のランナー:



佐藤安太

さとうやすた●福島県出身。昭和20年米沢工業専門学校化学工業科(現山形大学工学部)卒業。玩具メーカー株式会社タカラを創業。NPO法人の理事長を務めるなど、85歳を迎えた現在も現役として活躍中。



皆本由

みなもと ゆい●山形県出身。昨年8月から半年間、協定校となっている北東欧ラトビア共和国のラトビア大学に留学。専攻分野の知識と経験、そして海外生活で広めた視野をアピールポイントに就職活動を展開中。

大学時代にゼッタイ体験したかった留学、半年間のラトビア生活でさまざまな知識や感覚を吸収。

体験の成果

皆本由 理学部4年

小さい頃から進化や遺伝子、DNAといった分野に興味があって物質生命化学科に進学したという皆本由さん。その一方で、「海外から見た日本はどんな風なのだろう…」入学前から大学に入ったらぜひ留学したいと考えて1年生の時から洋書や映画などで英語に親しみ吸収した。そして、十分とはいえないまでもある程度の英語力を身につけたのだ。さらに、今までは翻訳された専門書を読んでじっくりこなかった内容のもの、原書で読めるようになったことで理解が深まったという。そうした日頃の努力が実を結び、昨年8月から今年の2月まで、半年間の海外留学のチャンスを得た。留学先となったラトビア共和国はロシアに隣接する北東ヨーロッパの美しい国。英語圏ではなかったが、

首都リーガにあるラトビア大学は、山形大学の協定校の一つで単位の取得も可能で留年の心配もなく、英語での講座も開講されている。留学生を広く受け入れており、専門分野の勉強に加えてさまざまな国の人々との交流も楽しめてとても貴重な経験になったと振り返る。

しかし、山大からラトビア大学への留学生は皆本さんが第1号ということもあって、当初は不安や多少のトラブルはあったようだ。日本からは直行便もなく、渡航に丸一日かかってしまう遠い国、ラトビア語とロシア語しか通じない移民局で手続きに手間取った滞在許可、日本食がなかなか手に入らない……。それらもみんな今ではいい思い出。ラトビアで知り合った友達とはメールや

インターネット電話での交流が続いているという。

「自分にはまだまだわからないことがたくさんあるということがわかった」とラトビア留学の収穫を自己分析する皆本さん。「これからはいろんなところへ行っていろんなものを見てみたい」とますます好奇心や向上心が旺盛になったようだ。卒業後は、理学部で学んだ化学的知識と留学で得た英語力や国際感覚を生かして海外の研究所などで分析系の仕事に就ければと希望している。海外留学を実現した皆本さんは次なる目標に向かって就活中。大学時代は、海外経験を積むには絶好機といえそうだ。皆本さんのように果敢に海外へ飛び出していくことは、その後の人生に大きなプラスになることは間違いない。



1



2



3

1 ラトビアの首都リーガは歴史地区として世界遺産登録されている美しい街。休日にそんな街を散策し、ヨーロッパの歴史や文化を満喫する皆本さん。ブレーメンの音楽隊のモニュメントを見つけ駆け寄ってにっこり。

2 リーガの街全体を上空から。バルト海に面するラトビア共和国は、夏でも気温は25℃前後という寒冷気候。ウィンタースポーツが盛んで、皆本さんも留学中はスキーやスケートを楽しんだという。

3 ロシアやヨーロッパなど、さまざまな国からたくさんの留学生たちが集まっているラトビア大学。こうして留学生たちが一堂に集まる機会も。前から2列目の左端で微笑んでいるのが皆本さん。

エリアキャンパスもがみ もがみめぐり

シリーズ⑦ 鮭川村



「エリアキャンパスもがみ」は、最上地区8市町村の豊かな自然環境を教育・研究・地域連携に生かそうと平成17年4月にスタートした大学と地域の新しい連携モデルです。最上広域圏全体をキャンパスに見立て、さまざまなフィールドワークや地域住民と教職員・学生との交流などを展開。山形大学のキャッチフレーズである「地域に根ざし、世界をめざす」やテーマとしている「自然と人間の共生」を具体的な形として実践しています。この「もがみめぐり」シリーズでは、毎回、一つの市町村をピックアップ。その地域の魅力とそこでの活動内容をご紹介します。

巨木に歴史を学び、人々と感動を分かち合う、 トトロの里での体験で人間力に磨きをかける。



新庄市の西に位置し、村の中心部を南北に貫いて村名にもなっている鮭川が流れる自然豊かな鮭川村。主要産業は農業と羽根沢温泉への観光などです。特に、なめこをはじめとするキノコ類の栽培が盛んで、山菜の宝庫でもあります。緑豊かな農山村ならではの自然や文化を生かしたグリーンツーリズムに力を入れており、バンガローやキャンプ場、運動広場、散策路なども整備されています。また、通称トトロの木として親しまれている小杉の大杉などで知られる巨木の里であり、貴重なギフチョウやヒメギフチョウが舞うチョウの里でもあります。里山の美しい風景と素朴な山の幸、そして穏やかな村人との交流も癒しを求める現代人に支持されています。

毎年、プログラムに変化を持たせて学生たちを迎え入れてくれる鮭川村の「フィールドワーク—共生の森もがみ」。2009年度のプログラムは、「郷土料理と里山自然体験」と「古代ロマンと伝統生活体験」の2つ。いずれも1泊2日の日程で2回にわたって鮭川村を訪れ、この地域の自然や暮らし、伝統や文化を通してさまざまなことを学ぶことになっています。6月に実施された「郷土料理と里山自然体験」では、山菜採り体験や郷土料理講習、ギフチョウ現場手入れ体験、巨木観察、ブナ林自然観察など、参加した学生たちは初体験の連続。その中で先人の知恵を学び、学生同士で、あるいは村人との間でさまざまな感動を共有することができたようです。

また、10月から11月にかけて実施が予定されている後期のフィールドワーク「古代ロマンと伝統生活体験」では、古代文化遺跡や里山の地域文化における自然との共生や環境について学習します。縄文時代中期末の古代文化遺跡調査や秋の味覚体験、伝統的な山仕事・炭焼き体験など、こちらもとても興味深い内容となっています。

今年で5年目を迎えた「フィールドワーク—共生の森もがみ」は、地域の受け入れ態勢もますます充実。学生たちが村内を闊歩する様子もすっかり馴染みとなり、山大キャンパス化は進んでいます。今年度の取り組みでもさまざまな実体験から多くを学び、色とりどりの成果を実らせることでしょう。



Area campus MOGAMI SAKEGAWA

1 樹齢1000年以上。アニメのキャラクターに似ていることからトトロの木の愛称で親しまれている小杉の大杉。2 2008年度のプログラム「日本一を目指す体験講座“トトロの里は花いっぱい”」で村の“花いっぱい運動”に参加する学生たち。3 同プログラムで“トトロの里マラソン大会”に参加した様子。4 2008年度のプログラム「鮭川きのご王国と鮭の一生」で鮭祭りのスタッフとして参加。5 2007年度のプログラム「伝承鮭川歌舞伎～歴史を感じる～」で貴重な歌舞伎体験に盛り上がる学生たち。6 2008年度プログラム「鮭川きのご王国と鮭の一生」で県内でもトップクラスの集荷量を誇るキノコの工場を見学。



山形と自国との懸け橋となる人財を育成します

平成20年10月に、理工学研究科ものづくり技術経営学(MOT)専攻のひとつ「とうほくものづくり国際人財育成プログラム(とうほくMITRAI)」コースが開講しました。同コースは経済産業省・文部科学省共催「アジア人財資金構想」を活用し、アジアから優秀な留学生を受け入れ、山形地域で活躍できる人財を育成する取り組みです。MOTの全4コースの総合力と地域に支えられた実学を通じて、日本文化と現地(海外)文化の両方の感覚を持つグローバル力とマネジメント力を兼ね備えた人財の育成を目指します。

1期生4人の留学生は平成21年3月までの半年間に、専門授業の「グローバ

ルマネジメント」ではトヨタ生産方式を中心に日本のものづくりについて、日本語は基礎的なものから「ビジネス日本語」に至るまで、「日本ビジネス」で日本の企業文化をそれぞれ学んできました。企業見学にも参加し、ものづくりの現場を自分の目で確かめてきました。

4月からはこれらの3科目に加え、当コース独自の「日本事情・キャリアパス」が、10月からは「インターンシップ」がそれぞれ開講します。自己のキャリアの考察と、職業意識の育成と向上を目指していきます。

日常生活では、日本人学生によるTAとチューターが日本語の手助けをしたり、

中国人学生チューターが生活を支援したりして手厚くサポートしています。加えて地元住民の協力によるホームステイや置賜・庄内地域での文化体験などを通し、生きた日本語・生きた日本文化を学ぶことにも力を入れています。

本コースの学生は、卒業後山形地域と自国とを結ぶ懸け橋となり、ものづくり分野での国際競争力の強化に貢献していくことが期待されています。

平成21年3月には、ベトナム2大学、中国6大学を訪問し10月入学の留学生募集活動を行いました。両国併せて5名の留学生を受け入れる予定です。



企業見学の様子



日本人TAと



正月の準備:餅を丸める

平成21年度「山形大学 YU Do Best 奨学金」奨学生が決定しました!

「山形大学 YU Do Best 奨学金」の平成21年度奨学生10名が決定いたしました。

本奨学金は、「山形大学結城プラン2008」に掲げる基本方針の一つである「なによりも学生を大切に、学生が主役となる大学創り」を目指し、成績・人物共に優秀な学生が安心して勉学に専念できる環境を整備することを目的として、平成20年度から実施されています。



奨学生証授与の様子

平成21年度入学式では、多くの新生とその保護者の方々が注目する中、奨学生全員が登壇し結城学長から奨学生証を授与されました。

奨学生代表の挨拶では、新入生に対して「勉学」に励むことの大切さを実体験をもとに語りました。

山形大学では、今後も「山形大学 YU Do Best 奨学金」奨学生を採用し、勉学に励む学生を支援します。



奨学生代表による挨拶

【山形大学 YU Do Best 奨学金】

- 選考時期：毎年度3月末
- 選考対象：①次年度に学部3年次学生(医学部医学科は5年次学生)となる山形大学学生
②成績・人物共に優秀であること
- 採用人数：毎年10名程度
- 奨学金支給額：月額30,000円
(年額360,000円)
- 支給期間：2年間

YAMAGATA UNIV. OPEN CAMPUS 2009



7/31 (金) 飯田キャンパス—医学部

- 医学部 飯田キャンパス(山形市内)
医学科/9:30~12:30 (受付/9:00~)
※医学科は、体験授業(一日医学生)も開講します。13:30~15:40
看護学科/14:00~16:30 (受付/13:20~)

8/7 (金) 米沢キャンパス—工学部
鶴岡キャンパス—農学部

- 工学部 米沢キャンパス(米沢市内)
9:40~16:30 (受付/9:00~)
- 農学部 鶴岡キャンパス(鶴岡市内)
11:00~16:00 (受付/10:00~)

8/8 (土) 小白川キャンパス
人文学部・理学部
地域教育文化学部

- 小白川キャンパス(山形市内)(受付/9:00~)
- 人文学部/9:20~16:00
- 地域教育文化学部/9:30~16:30
- 理学部/9:30~16:30
- 附属図書館・附属博物館
館内案内ツアー
9:30~16:30
※農学部の相談ブースも設置します。
9:30~16:30



- 来場者特典
来場者には山形大学オリジナルグッズをプレゼント! (数に限りがございます。)

●学生食堂体験

学生食堂を営業いたしますのでご利用ください。

●無料シャトルバスを運行します

各キャンパス“最寄り駅”(山形駅、米沢駅、鶴岡駅)から無料シャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。

小白川C⇔山形駅、飯田C⇔山形駅、
米沢C⇔米沢駅、鶴岡C⇔鶴岡駅

※小白川キャンパスに自家用車でこられる場合は、山形県庁駐車場をご利用ください。
山形県庁から小白川キャンパスまでは無料シャトルバスを運行いたします。

●参加申込み受付中!

事前申込みが必要です。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)

※事前申込みをいただき、メールマガジン登録をしていただいた方には本学の入試等に関する情報をお送りいたします。
詳しくは山形大学ホームページをご覧ください。

www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html

携帯サイトへはこちらから→



大学院説明会

●社会文化システム研究科

日時/7月22日(水)
問い合わせ/入試ユニット
TEL 023-628-4146

●地域教育文化研究科

日時/7月15日(水)
問い合わせ/入試ユニット
TEL 023-628-4142

●教育実践研究科

日時/8月22日(土)
問い合わせ/入試ユニット
TEL 023-628-4142

入学試験

●工学部

アドミッション・オフィス入学試験(AO入試)(Aコース)
(第1次選考)9月11日(金) 工学部(米沢市)

(第2次選考)10月17日(土) 工学部(米沢市)

●医学部第3年次編入学(看護学科)

8月31日(月) 医学部(山形市)

●工学部第3年次編入学(A・Bコース)

8月28日(金) 工学部(米沢市)

●農学部第3年次編入学

7月4日(土) 農学部(鶴岡市)

●大学院社会文化システム研究科

(推薦)9月17日(木)

(一般、社会人、外国人留学生)

9月18日(金) 人文学部(山形市)

●大学院理工学研究科(理学系)博士前期課程

(推薦)7月11日(土)

(一般、社会人、外国人留学生)

8月20日(木)・21日(金) 理学部(山形市)

●大学院医学系研究科

(医学専攻・生命環境医科学専攻)

8月25日(火) 医学部(山形市)

●大学院医学系研究科(看護学専攻)

8月28日(金) 医学部(山形市)

●大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程

(推薦)7月16日(木)

(一般)8月20日(木)・21日(金)

(社会人)8月20日(木)

(外国人留学生)8月21日(金) 工学部(米沢市)

●大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程
(平成21年10月入学)

(一般)8月20日(木)・21日(金)

(社会人)8月20日(木)

(外国人留学生)8月20日(木) 工学部(米沢市)

●大学院農学研究科

9月4日(金) 農学部(鶴岡市)

●大学院理工学研究科(理学系)博士後期課程

(第一回)8月28日(金) 理学部(山形市)

●大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

(第一回)8月27日(木) 工学部(米沢市)

●大学院理工学研究科(理学系)博士後期課程

(平成21年10月入学)

8月28日(金) 理学部(山形市)

●大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

(平成21年10月入学)

8月27日(木) 工学部(米沢市)

問い合わせ/入試ユニット

TEL 023-628-4141

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

公開講座等

理学部

小さな科学者・体験学習会 親子で体験! バイオロジー・7

日時/8月2日(日) 13:00~16:00
場所/SCITAセンター(山形市・理学部内)
対象/小学5年生~中学生、及びその保護者 20名
参加費/無料
問い合わせ/SCITAセンター
TEL 023-628-4506

小さな科学者・体験学習会 望遠鏡を作って観る

日時/9月26日(土) 16:00~18:30
場所/SCITAセンター(山形市・理学部内)
募集人員/小学4年生~中学生 20名(保護者同伴可)
参加費/無料
問い合わせ/SCITAセンター
TEL 023-628-4506

サイエンス・サマースクール in やまがた

日時/8月6日(木)~12日(水)
場所/理学部(山形市)
対象/高校生 参加費/無料
HP/<http://www.sci.kj.yamagata-u.ac.jp/sssy.html>
問い合わせ/理学部事務ユニット
TEL 023-628-4505

工学部

科学フェスティバル in 米沢 2009

日時/8月1日(土)、2日(日) 10:00~16:00
場所/工学部(米沢市)
対象/小中学生
参加費/無料
問い合わせ/科学フェスティバル実行委員会
TEL 0238-26-3002

暮らしの中の身近な化学

日時/9月5日(土) 10:00~15:00
場所/伝国の杜(大会議室)(米沢市)
募集人員/一般の方(中学生以上) 50名
参加費/無料
問い合わせ/工学部事務ユニット広報室
TEL 0238-26-3419

人間を対象とする計測・制御技術 —システムという観点から—

日時/9月26日(土) 13:00~17:00
場所/工学部(米沢市)

募集人員/一般の方(高校生以上) 40名
参加費/無料
問い合わせ/工学部事務ユニット広報室
TEL 0238-26-3419

農学部

森の学校

四季折々の森における多様な自然の姿を、
各種プログラムにより体験して頂きます。
日時/第1回 7月11日(土)
第2回 10月3日(土)
第3回 2月6日(土)
各回とも、8:45(集合)~16:00(解散)
場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター演習林(鶴岡市上名川)
募集人員/小学3・4年生 30名(先着)
参加費/各回 500円
問い合わせ/農学部事務ユニット
附属施設チーム
TEL 0235-24-2278

学術情報基盤センター

どうするケータイの指導

日時/8月7日(金) 13:00~17:00
場所/小白川キャンパス(山形市)
教養教育1号館 110教室
募集人員/保護者・教育関係者・一般の方 50名
参加費/無料
問い合わせ/学術情報基盤センターユニット
TEL 023-628-4209

教職研究総合センター

塾通い及び生活習慣(家庭学習の 習慣)と学力との関係

日時/7月3日(金) 18:30~20:00
7月17日(金) 18:30~20:00
場所/地域教育文化学部1号館A4教室(山形市)
募集人員/社会人 50名
受講料/1,000円
問い合わせ/地域教育文化学部総務担当
TEL 023-628-4304

附属学校

すこやか広場 第2回 夏シリーズ 親子で水遊びをしましょう

日時/7月23日(木) 14:30~15:45
場所/附属幼稚園(山形市)
募集人員/2~3歳児 親子50組
参加費/親子1組200円

問い合わせ/附属幼稚園
TEL 023-641-4446

親子わくわくワークショップ

日時/7月25日(土) 10:00~12:00
場所/附属小学校(山形市)
募集人員/園児、小学生とその保護者、幼稚園・
保育園・小学校・特別支援学校の教員
親子50組(園児・小学生は保護者同伴)
参加費/親子1組500円
問い合わせ/附属小学校
TEL 023-641-4443

たのしくあそぼう からだところを育てるあそび

日時/8月1日(土) 10:00~11:30
場所/附属特別支援学校(山形市)
募集人員/軽度の知的障がい及び発達の遅れを感
じる幼児と保護者・保育者 10組20名
参加費/無料
問い合わせ/附属特別支援学校
TEL 023-631-0918

親子で楽しむ秋の星座

日時/9月19日(土) 18:30~20:30
場所/附属中学校(山形市)
募集人員/幼児、小・中学生とその保護者、幼稚園・保
育園・小学校・中学校・特別支援学校の教員
親子50組(150名程度)
参加費/1家族500円
問い合わせ/附属中学校
TEL 023-641-4440

山形大学特別プロジェクト

「藤沢周平の山形 第5章 山形」 第2回 高校生朗読コンクール

若い世代への藤沢周平への関心を高めると
ともに、高校教育における文芸活動の発展
に寄与することを目的として、県内の高校
生を対象とした朗読コンクールを開催いた
します。是非、ご聴講ください。

日時/9月5日(土) 13:30~17:00

第1部 朗読コンクール本選

第2部 朗読ワークショップ

渾大防一枝氏(演出家・劇団
民藝)による朗読指導

第3部 結果発表・講評・表彰式

会場/小白川キャンパス(山形市)

教養教育3号館 312教室

問い合わせ/総務部総務ユニット

TEL 023-628-4004

「山形大学 未来基金」 ご協力をお願い



何よりも学生を大切にすることを目指して

山形大学は、何よりも学生を大切に、21世紀の社会に貢献できる、「豊かな教養」と「優れた専門性」を備えた人材養成を目指して、大学運営を進めています。

その一つが、学生が存分に勉学に励み、安心して生活できる教育・研究活動を整備することを目的に創設した「山形大学 YU Do Best 奨学金」であり、今年度で2回目の奨学生を輩出しました。この4月に挙行された入学式では、新入生が本学での勉学に励む目標となるよう、この奨学金の奨学生に対して奨学生証授与式を行い、奨学生代表者から新入生の模範となるべく熱い抱負が述べられたところです。

そして、この奨学金の原資として創設されたのが、この「山形大学未来基金」です。この「山形大学未来基金」が創設され1年が経ち、保護者をはじめ、地域の企業など、各方面からご支援をいただいております。

今後とも、「山形大学未来基金」を充実するとともに、本学から優秀な人材をより多く輩出するため、一層皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

Yamagata University 60th Anniversary

山形大学創立60周年

山形大学は、山形県下にあった旧制の山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校、山形県立農林専門学校の5校を母体として、昭和24年5月に山形県の“知の拠点”として設立され、今年で60周年の記念すべき年を迎えることとなりました。

今後も“キラリと光る存在感のある大学”として、さらなる進化を続けるべく、以下の記念事業を実施いたします。

実施予定事業

- 60周年記念式典、学術講演会、記念祝賀会の開催
- 大学歌の制作(詩の公募)

※大学歌につきましては、平成21年6月23日(火)から公募中です。最優秀作品には、賞金100万円をお贈りしますので奮ってご応募ください。各事業の詳細は、本学ホームページをご覧ください。



国立大学法人山形大学長

結城 章夫

編集後記 Editor's Note

山形大学とJリーグの連携は、国立大学としては非常にめずらしくその経緯や目的は、この特集を読んでもわかると思います。Jリーグは実力の世界で結果が求められます。J1に上がっても、落ちては意味がありません。大学も法人化後、ずいぶん変わってきました。みどり樹をご覧いただいてもその変化は感じられていると思います。大学はJ1のような実力世界までは求められてはいません。しかし、少子化を考えると実力の世界になることも考えられます。今後の山形大学のサポーターは、読者の皆様です。その声を聞く、仕組みも今後必要かこの記事を読んで思いました。

(みどり樹編集委員会委員 栗山恭直)

表紙のことば

モンテディオ山形のホームであるNDソフトスタジアム山形にスポーツ山形21の海保理事長を訪ねた結城学長。さまざまなカタチで絆を深め、ともに成長し、地元山形の発展のために力を尽くしていくことを改めて確認し合った。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧いただけます。
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。
E-mail : sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>